

共同助成(岐阜県遊技業協同組合)

## 「飛驒の宝物(伝統文化、自然)を子育てに活かし、地域ぐるみの子育て支援環境を作る」事業

### 地域特性や社会情勢で孤立しがちな子育て家庭に丁寧に関わり合いながら温もりや安心を届ける

コロナ禍によって集まることや触れ合うことが制限されるなか、飛驒地方の伝統文化と森林資源を子育てに活かし、親子の触れ合いを深める活動を展開するとともに、地域ぐるみの子育て支援環境を作ることに熱心に取り組んだ団体がある。その活動が子育て家庭や関係機関に認知され、地域の頼れる存在としての認識が高まった。



「ミニサマーフェスティバル」の開催を告知するチラシ



会場では多くの親子が集まりイベントを楽しんだ

### 日本一広い市町村の高山市で誰一人取り残さない子育て環境を

日本一面積の広い市町村である岐阜県高山市およびその周辺自治体は、森林が90%以上という地域のなかに子育て家庭が点在しており、子育て支援施設や親子向けイベントも市中心部に集中しているため、元々多くの子育て家庭が孤立しがちなことが課題として指摘されていた。そこで、飛驒地方に伝わる独自のわらべうたを発掘・伝承する活動を通して子育てに有効的に活かしていくとともに、同地方の森林保全につながる木育の推進、子育て家庭の居場所づくりや育児支援を行う子育てひろばの運営、託児・訪問支援などを柱として、誰一人取り残さない子育て環境を作ることを目的に活動を続けているのが、「飛驒高山わらべうたの会」である。

昨年来のコロナ禍、ことに緊急事態宣言期間中には休

園や休校、子育て支援施設の閉鎖、各種検診やイベントなどの中止、外出の自粛といった対策が取られるなか、多くの子育て家庭が孤立した。そんななか、同団体では手作りマスクや牛乳加工飲料(スムージー)を困窮家庭に届けたり、妊婦や子育て家庭向けに助産師とともにインスタライブを配信したりするなど、様々な支援活動を実施した。

さらに2020年6月以降、最初の緊急事態宣言が解除され、学校や園が再開し、経済活動が再開された後も、集まることや触れ合うことが制限され、親子向けのイベントの中止、子育て支援施設の利用制限などもあり、親子が楽しむ機会や交流する場が失われてしまった。しかし、同団体では、そうした状況に意気阻喪することなく、規模を縮小したり、回数を増やしたり、内容を工夫したりしながら、感染症対策をしっかりと講じたうえで、子育て親子向けの事業に取り組んだ。

### コロナ禍で活動に工夫を凝らすことでかえって一人一人に寄り添う結果に

毎年2,000人以上の親子が参加していた「サマーフェスティバル」は、「ミニミニサマーフェスティバル」と称し、14回に分けて、親子わらべうた遊び、木のおもちゃ作り、こども縁日などを行い、687名の親子が参加した。「森のワークショップ」は2日間に分けて、クリスマスリース、手形時計、スプーン作りなどを行い、1038名が参加。「親子で楽しむワイワイカフェ」は5回に分けて行われ、親子わらべうた遊び、ワンちゃんふれあおう、シャボン玉遊び、手形の七五三お祝袋作りなどに125名の親子が集まった。さらに全4回の「クリスマス会」、飛驒地方の伝統的なひな祭り行事の「がんどうち」を楽しむ「森のエコカフェ」に、それぞれ143名、133名の子育て親子が参加した。

「14回に分けて開催したミニミニサマーフェスティバルでは、『まさか今年、子どもに夏祭りを体験させてあげられるとは思ってなかった』、『この甚平、今年初めて着せてあ

げられた』など、多くの保護者に喜んでもらえました。これまで50組～500組の参加者という規模で様々な事業を行ってきたので、一人一人の保護者や子どもとじっくり接することができなかったのですが、今回、規模を縮小して回数を増やしたことで、かえって一人一人に寄り添うことができました。私たちの団体がこの地域の子育て家庭にとって、身近な頼れる存在だと認識してもらえた一年だったと思っています」と、代表者は話す。今回の事業内容は2月に開催された高山市主催の「協働のまちづくりフォーラム」で発表する機会があり、行政や関係機関などから感嘆の声が挙がったという。

### 岐阜県遊技業協同組合より

地域ぐるみで子育てを支援する取り組みに賛同させていただきます。今後の活動の発展を期待しています。



クリスマスリース作り体験を開催した「森のワークショップ」



全4回開催した「クリスマス会」

助成団体:特定非営利活動法人 飛驒高山わらべうたの会

<https://hidawarabe.org/>



### 頼れる存在としての認識が広がっていることを実感しています

まさかこのような一年になるとは予想もしておらず、子育て家庭の多くが孤立し、困窮するなか、助成をいただいたおかげで、一人一人に寄り添い、大切な親子の触れ合いの機会を作り、手を差し伸べることができました。おかげで公式LINE登録者も1,000人を超え、様々な相談や依頼をいただくようになりました。

特定非営利活動法人 飛驒高山わらべうたの会  
理事長 岩塚 久美子さん